

理性的存在者(a rational existent)への道

生井利幸

[導入]

本稿では、わたくし生井利幸が、「皆さんが、どのような考え方・捉え方の下で理性的存在者になるための道を歩むことができるか」、わかりやすく講じていきます。

この教材で学ぶ諸々の考え方・捉え方は、単に、知識を増やすための勉強法ではなく、この地球上のどこに行っても通用する「奥の深い、頑丈な教養」を養うための勉強法でもあります。

[本文]

「公平無私な学問の精神」を基盤として“真の学びの道”を歩む者にとって、以下に掲げる事項は、日本でも海外でも常に「真理」(the truth)であると明言できます。

1 理性的存在者を目指す人における「英知についての捉え方」

- ・英知は、常に、「美しいもの」である。

- ・ 一見、難しいと感じる英知でも、実際は、その中に「何らかの美」が内在している。
- ・ 英知は、日常生活において大変役に立つ代物である。
- ・ 少しずつ「真の英知」を自分の体（個）に入れていくと、より美しい人間になれる。

2 理性的存在者になることを目指さない人における「英知についての捉え方」

- ・ 英知は、「難しいもの」である。
- ・ 英知は、日常生活には役に立たない代物である。

3 理性的存在者を目指す人における“基礎的”勉強方法

- ・ 安易な近道を探すことなく、一つひとつ、真心を込めて丁寧に勉強する。
- ・ 道に迷ったとき、勝手な妄想を抱かず、「出発点・原点に戻る重要性」を知っている。
（人間社会における“常”であるが、非理性的存在者は、道に迷ったときも、ローカルな知識欲で、先に進む。）
- ・ 『自分は何も知らない』ということを知ることが、真の知の道を歩むための第一歩である」という学問の根本精神を忘れない。
- ・ 「学問は、簡単には身に付かない」という全人類共通の常識を忘れない。
- ・ 「勉強は、自己の理性を構築し、その後、理性の質の改善・向上・発展のために行うものである」という考え方がわかる人。
- ・ (1)「理性の問題」と(2)「感情の問題」を“別物”として分けることができる。
- ・ (1)「感性」と(2)「感覚」の相違について、必要十分に認識・理解している。

4 理性的存在者になれない人の典型

- ・ 自分が「何者」であるか知らない人。
- ・ 自分の本当の能力を知らない人。
- ・ 一事が万事において、一年中、「勉強の近道」を探し続けている人。
- ・ 勉強はしても、「勉強の仕方・方法」を知らない人。
- ・ 感情の起伏・変化で、「勉強する・しない」を決める人。
- ・ 感情、及び、感覚で勉強する人。
- ・ (1)「感覚」と(2)「感性」の違いがわからない人。
- ・ (1)「理性の問題」と(2)「感情の問題」を“別物”として分けることができない人。

【終わりに】

わたくし生井利幸は、毎日、「勉強に勉強を重ねて、将来、理性的存在者になることを目指す学習者」のために全力を尽くして応援・援助し、常に、「最も適切な指導・助言」を提供しています。

「理性の重要性」を見据え、わたくしの下でしっかりと勉強する人は、必ず、自分自身を「真の理性的存在者」として樹立することができます。